

令和3年 1月 8日

千代田区立九段小学校

校 長 清水 明

図画工作科 大高 美和



未知の体験に向かって

1月の展示会を前に、作品が2点ある学年ではそれぞれの児童がどちらか1点を出品作品として選んでいます。選ばれた作品は、本人にとって得心の作だったと思われるものもありますが、中には明るいイメージの作品を選び、暗いイメージを描いたものをあえて選ばなかった児童もいました。

4年生の「彫って咲かせる不思議な花」には、「嵐の中の花」「悪の華」「闇の中に咲く花」「地獄に咲く華」など過酷な場所に咲く花を描いた児童が多くいます。日頃の児童の「子供らしい明るさや素直さ」とのギャップに驚かれる保護者の方もいらっしゃるかと思います。しかし、これは特別なことではなく4年生から徐々に、そういったイメージの作品を生み出す傾向が図工では見られます。

指導において私は、様々な人間関係や環境で深刻な悩みを抱えている児童も想定し、担任と共に慎重に見守りながら進めています。また、生命の尊厳に関わる表現には実際の体験を想起させながら厳しく指導しています。しかしながら一方で、そういった児童の造形活動を問題であるにとらえるのではなく、葛藤を受け止めるたくましさや心の成長としてとらえています。心理学者である河合隼雄氏によると思春期は、私たち人間は自分にとっての価値基準を一から作り始める時期であるということです。思春期に差し掛かる前の児童たちは、自分なりの善と悪を考えたり、不条理を想像したりし、それらを表現することによって自分にとっての意味を確かめ、未知の体験に備えているのではないのでしょうか。

1【9月の図工】

3年生「光と色のファンタジー」

カラーセロハンの光を透す効果やアルミテープやホイル折り紙の光を反射する効果を確認しながら、窓飾りを作りました。日の当たる窓に当ててみると、効果が際立ち、歓声が上がりました。色の重なりや混ざり合いを確認しながら完成させました。



4年生「キラキラから見つけた世界」「似たものつながりゲーム」

絵具やニスをかけ透明な光沢で覆う「グレース」の技法をアルミホイルで体験しました。そのつややかな画面の様子から、思いついた形を描き進めて絵にします。低学年から取り組んでいる形を見立てる活動が、4年生の発想力に生かされています。



もう一つの活動は国立美術館のアートカードを使った鑑賞です。古典から現代美術まで、様々な作品に触れ共通点を見つけることで、造形的な見方を広げていくことを目的にしています。



5年生 「はさみのリズムに乗って」「作品を見つめて」

自分の心のリズムを感じながら、できるだけ複雑に切った形を、組み合わせ、テーマを見つけます。色数を自分で考えて、自分でバランスを取りながら製作を進めることで、一人一人の心の中にある形や色のセンスに気付く活動です。



もう一つの活動は、名画を詳細に観察し、作品の意図を想像し班で意見をまとめる活動です。どの班でも一人一人が自分の意見を発信できており、5年生の学び合う姿が見られました。

6年生 「水のある風景」「共同作品(部分)」

焼き物で水のある庭園や風景をイメージして表す活動です。箱庭を作るイメージで、自分の世界に没頭してほしいと願って進めている活動です。



もう一つは共同作品です。制作当日参加できない児童が活動できるよう、一人一人が一部分ずつ製作しました。この作品群が展覧会で図工室の空間に展開されます、

2【1月の題材予定】 敷物・教科書・筆記用具・エコバッグは常に持ってきます。

学年	題材	分野	特別な持ち物・備考
3年	リコーダーを吹いたら 共同作品（染料使用）	平面	絵具セット・クレヨン エプロン又は汚れてよい服装で・手拭き用タオル
4年	生活をテーマに 共同作品・コマドリアニメ	平面	絵の具・クレヨン・宿題：お手伝いをする タブレット
5年	なりきり！作品調査団！ 共同作品・糸鋸ドライブ	鑑賞	（国立近代美術館との遠隔授業を目指して） 糸鋸ドライブは絵具セットが必要です。
6年	水のある風景 共同作品	焼き物共	手ぬぐい（薄手の使い古したタオルなど） 手ぬぐいを入れるビニール袋。

